

手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告 XI —水面(1996)—

平岡考*1, 百瀬邦和*1, 鶴見みや古*1, 太田紀子*2,3, 斉藤安行*2

キーワード：鳥相、センサス、手賀沼、千葉県、水面、水鳥

はじめに

手賀沼は千葉県北部に位置する湖沼で、古くから水禽類の渡来地として知られている(黒田1985)。山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館では、手賀沼とその周辺の鳥類の生息状況を把握する目的で共同で鳥類調査を実施してきた。調査では、手賀沼周辺の環境を①ヨシ原、②水田・畑地、③斜面林、④水面の4つに区分し、各環境区分ごとにセンサスをおこなっている(斉藤ほか1992a, b, 斉藤・大山1993, 1994, 1995, 1996, 平岡ほか1994, 1995, 1996)。

本報文では、水面の鳥類センサスについて、前報(平岡ほか1996)にひきつづき、1996年1月から12月までの結果を報告する。

調査地と方法

手賀沼は北部と南部の二つの沼からなり、それぞれ本手賀沼、南部手賀沼と呼ばれているが、調査は本手賀沼の開放水面を対象におこなった。本手賀沼(以下「手賀沼」と呼ぶ)は、開放水面の面積が約360haの東西に細長い水域である(図1)。

センサスにあたり重複カウントを防ぐため、対岸の観察地点を直線で結んで手賀沼の水面をA1~A6とB1~B5の11区画に分けた(図1)。4班に分かれた4~5名の調査者が沼兩岸の観察地点を移動しながら、それぞれ受け持ちの区画で、定点から出現した鳥種と個体数をカウントし記録した。カウントにあたっては、可

能な限り、対岸の調査班と時間を合わせ、また事後の調整によって境界線付近の鳥の移動によるカウント誤差を少なくするように努めたが、飛行あるいは小群の遊泳等による移動は無視した。

なお、1996年4月よりA2の観察地点を西へ約50m移動した。これは北千葉導水事業により従来のA2地点の背後に北千葉第2機場が建設され、観察地点付近が機場の水門にいたる水路になったためである。

カウントの対象としたのは開放水面に出現した個体のみであり、抽水植物群落に出現したものや上空を通過しただけの個体は含めなかった。ただし、水面上を飛んでいる鳥で水面を利用していると考えられるもの(カモメ科など)と開放水面中に設置された漁網や杭の上の個体は含めた。また水位変動により冠水する抽水植物群落の縁の砂地や中州の上の個体も含めた。各区

表1 調査日時と天候

年月日	天候	調査時間
1996年1月18日	曇	8:40-10:30
2月15日	晴のち曇	8:40-10:10
3月14日	晴	8:38-10:05
4月17日	快晴	8:24-9:47
5月16日	晴	8:35-9:43
6月19日	曇	8:30-9:35
7月16日	薄曇	8:38-9:48
8月20日	曇	8:30-9:35
9月12日	晴	8:30-10:00
10月15日	晴	8:30-10:15
11月14日	曇	8:38-10:36
12月13日	曇	8:39-10:24

*1 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115 (財)山階鳥類研究所

*2 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山234-3 我孫子市鳥の博物館

*3 現所属：〒950-21 新潟市五十嵐二の町8050 新潟大学大学院自然科学研究科

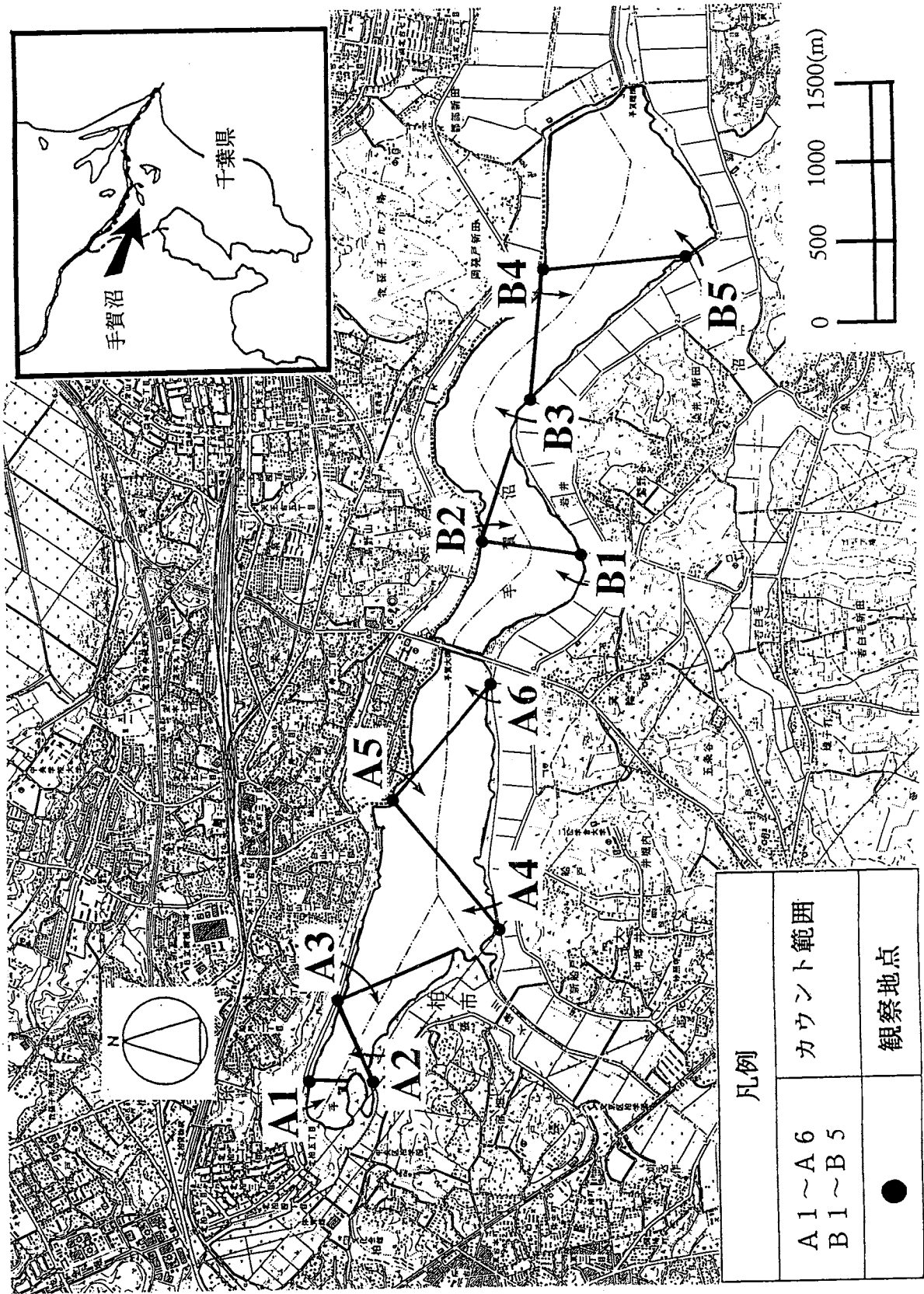


図1 調査地位置図

注：この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（取手、流山）を使用したものである

画の記録をすべて合計し、手賀沼の水面における各月の生息個体数とした。調査は毎月1回行い、おおむね午前8時30分から始め午後12時まで終了した。表1に調査日時と天候を示す。観察にあたり、双眼鏡（7～10倍）と地上望遠鏡（20～60倍）を用いた。

なお、観察ポイントA6の背後のヘドロ沈殿用の池にはカモが少数入ることがあったが、集計には含めなかった。

結 果

表2にセンサスの結果を示す。1年間に9目13科41種の鳥類を確認した。種の確認ができなかったものがサギ科（白色のサギ類）とカモ亜科（カモ類）にあった。

確認種数と総個体数の月変化をそれぞれ図2

と図3に示した。種数は、最小8種（5月）から最大28種（12月）までの間で変化した。総個体数は、最小165羽（6月）から最大2171羽（12月）まで大きな変化が見られた。

種ごとの各月の個体数を1年間累計したものを表3に示す。もっとも多かったのはカルガモの2439羽で、つづいてハシビロガモ（1676羽）、コガモ（1355羽）、オオバン（1109羽）、マガモ（1014羽）と続く。

夏期（6月、7月、8月）および冬期（1月、2月、12月）の累積総個体数にしめる各種の優占割合を求め、図4に示した。冬期の上位5種はハシビロガモ、カルガモ、マガモ、コガモ、オオバンだった。また、夏期の上位5種はカワウ、カルガモ、オオバン、カイツブリ、コブハクチョウだった。

表2 手賀沼鳥類センサス結果—水面—（1996年）

種名	月/日											
	1/18	2/15	3/14	4/17	5/16	6/19	7/16	8/20	9/12	10/15	11/14	12/13
カイツブリ	50	77	23	19	9	18	16	15	39	37	13	28
ハジロカイツブリ		1									1	12
カンムリカイツブリ												1
カワウ	23	40	42	79	77	70	70	28	10	64	100	79
ヨシゴイ									1			
ゴイサギ	1	3						1				
アマサギ									6			
ダイサギ	1	1	2	1			7	21	8	10	6	10
チュウサギ									1			
コサギ	4	8	4		1		4	9	18	13	6	12
アオサギ	31	34	20			1	7	23	32	34	25	29
サギ科sp. (シラサギ)			1									
コブハクチョウ	11	7	8	7	2	14	10	12	10	5	10	6
オシドリ							1					1
マガモ	149	209	59	1		2				10	191	393
カルガモ	310	242	152	168	49	25	16	84	213	353	301	526
コガモ	216	220	77	51	1					275	278	237
ヨシガモ												2
オカヨシガモ	162	54	16								6	154
ヒドリガモ										2	28	2
オナガガモ	200	92	44							3	22	207
ハシビロガモ	431	477	308	179						17	79	185
ホシハジロ	52	62	20	2						4	59	33
キンクロハジロ	2										12	2
スズガモ		1									10	2
ミコアイサ	54	23	1								10	80
カモ亜科sp.	7								2		24	1
キジ											1	
クイナ			1									
バン	14	11	6	13			1	2	8	6		3
オオバン	280	213	160	100	21	27	32	13	54	38	80	91
コチドリ			5									
イソシギ									2			
ユリカモメ	137	13	35	42						4	19	64
セグロカモメ	4	3	3								2	6
コアジサシ					18	7	3					
カウセミ								1	1	1		1
ハクセキレイ				1								
セグロセキレイ										2		
ツグミ		1										
オオヨシキリ						1						
ハシボソガラス	4	3	6	1			2	4	3		7	3
ハシブトガラス	1											1
個体数合計	2144	1795	993	664	178	165	169	213	408	878	1290	2171
種数	22	23	21	14	8	9	12	12	15	18	23	28

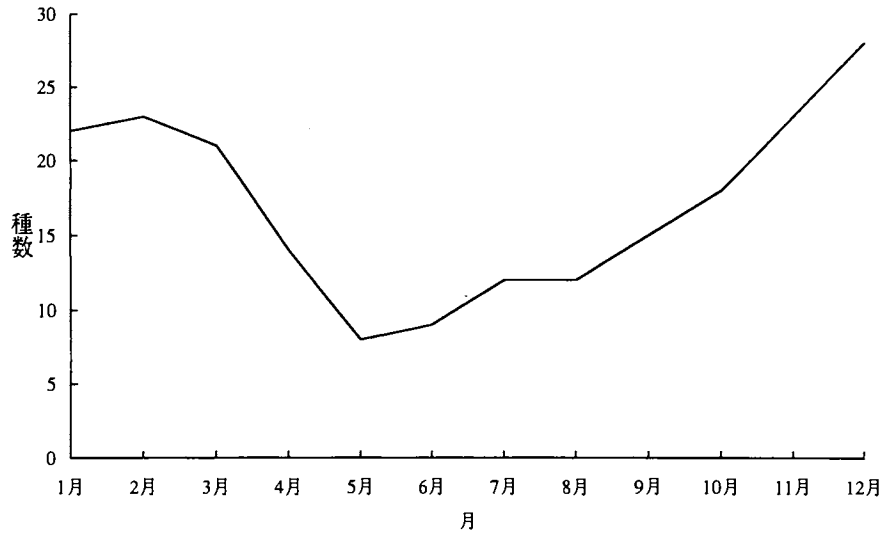


図2 種数の月変化

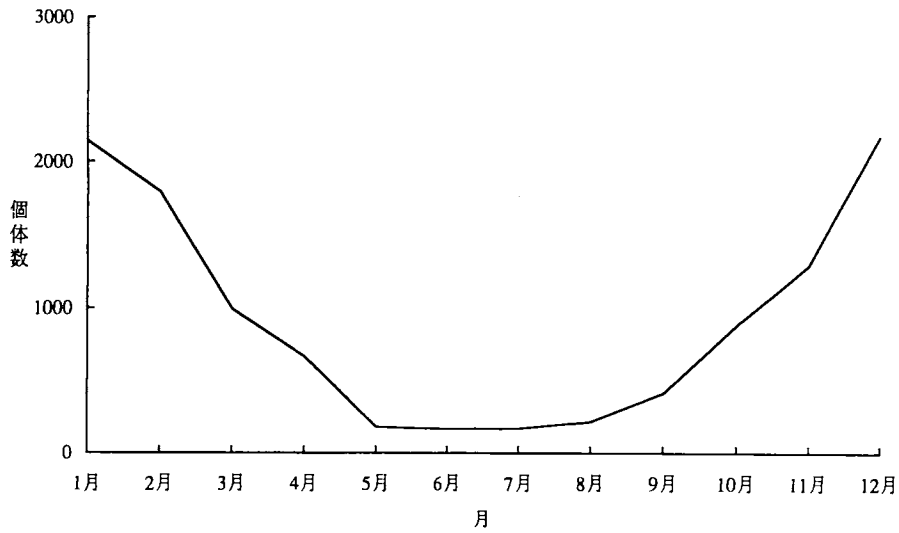


図3 個体数の月変化

表3 種別年間累積個体数

順位	種名	累積個体数	順位	種名	累積個体数	順位	種名	累積個体数
1	カルガモ	2439	16	ダイサギ	67	30	ヨシガモ	2
2	ハシビロガモ	1676	17	バン	64	30	イソシギ	2
3	コガモ	1355	18	カモ亜科sp.	34	30	セグロセキレイ	2
4	オオバン	1109	19	ハシボソガラス	33	30	ハシブトガラス	2
5	マガモ	1014	20	ヒドリガモ	32	35	カンムリカイツブリ	1
6	カワウ	682	21	コアジサシ	28	35	ヨシゴイ	1
7	オナガガモ	568	22	セグロカモメ	18	35	チュウサギ	1
8	オカヨシガモ	392	23	キンクロハジロ	16	35	サギ科sp. (シラサギ)	1
9	カイツブリ	344	24	ハジロカイツブリ	14	35	キジ	1
10	ユリカモメ	314	25	スズガモ	13	35	クイナ	1
11	アオサギ	236	26	アマサギ	6	35	ハクセキレイ	1
12	ホシハジロ	232	27	ゴイサギ	5	35	ツグミ	1
13	ミコアイサ	168	27	コチドリ	5	35	オオヨシキリ	1
14	コブハクチョウ	102	29	カワセミ	4			
15	コサギ	79	30	オシドリ	2			
							合計	11068

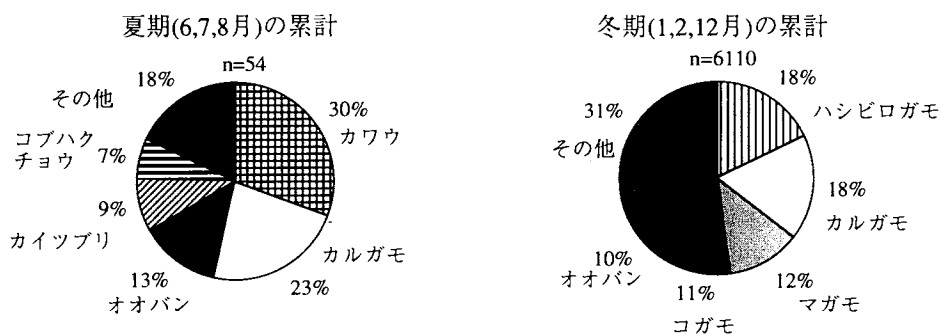


図4 夏期と冬期の優占種

引用文献

- 黒田長久. 1985. 水鳥の里・手賀沼；我孫子移転にあたって. 山階鳥類研究所報告 17：3-8.
- 斉藤安行・百瀬邦和・平岡考・鶴見みや古・大山紀子. 1992a. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告I —ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1988-1991)— 我孫子市鳥の博物館調査研究報告1：43-59.
- 斉藤安行・平岡考・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1992b. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告II —水面(1988-1990)— 我孫子市鳥の博物館調査研究報告1：61-73.
- 斉藤安行・大山紀子. 1993. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告III —ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1992)— 我孫子市鳥の博物館調査研究報告2：25-34.
- 斉藤安行・大山紀子. 1994. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告IV —ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1993)— 我孫子市鳥の博物館調査研究報告3：71-79.
- 斉藤安行・大山紀子. 1995. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告VI —ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1994)— 我孫子市鳥の博物館調査研究報告4：43-53.
- 斉藤安行・大山紀子. 1996. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告VIII —ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1995)— 我孫子市鳥の博物館調査研究報告5：175-185.
- 平岡考・斉藤安行・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1994. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告V —水面(1991-93)—

- 我孫子市鳥の博物館調査研究報告3：81-89.
- 平岡考・大山紀子・斉藤安行・百瀬邦和・鶴見みや古. 1995. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告VII —水面(1994)— 我孫子市鳥の博物館調査研究報告4：55-60.
- 平岡考・鶴見みや古・大山紀子・斉藤安行・百瀬邦和. 1996. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告IX —水面(1995)— 我孫子市鳥の博物館調査研究報告5：187-192.

Bird census report at the Lake Teganuma and the periferal area. XI.
—Water surface(1996)—

Takashi Hiraoka*¹, Kunikazu Momose*¹, Miyako Tsurumi*¹,
Noriko Ohta*^{2,3}, and Yasuyuki Saito*²

The Abiko City Museum of Birds and the Yamashina Institute for Ornithology conduct regular surveys of the avifauna in the Tega Marsh region. Bird habitats are divided into four basic categories, water surfaces, reedbeds, farmlands (including both wet rice paddies and dry fields) and woodlands. This report summarizes the water surface data for 1996. Surveys were conducted regularly throughout the year, and a total of 41 species in 13 families and 9 orders were identified. The smallest number of species (8) was recorded in May, and the largest number (28) in December. The smallest number of individuals (165) was recorded in June, and the largest (2171) in December. Spot-billed Duck was the most numerous species (2439), followed by Shoveller (1676), Green-winged Teal (1355), Coot (1109) and Mallard (1014).

KEY WORDS : Avifauna, count survey, water surface, Tega Marsh

1. Yamashina Institute for Ornithology, Kohnoyama 115, Abiko, Chiba Pref., 270-1145 Japar.
2. Abiko City Museum of Birds, Kohnoyama 234-3, Abiko, Chiba Pref., 270-1145 Japan
3. Present address: Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Ninomachi 8050, Igarashi, Niigata, Niigata Pref. 950-21 Japan.